

令和2年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会 議事録

審議会等名 令和2年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会
日 時 令和2年7月15日(水) 午後2時00分～午後4時20分
会 場 下野市役所 3階 教育委員会室
出席者 倉井典子 委員、高橋美恵子 委員、蓬田みどり委員、宮川長一 委員、
瀬端徹 委員、影山政夫 委員、小杉満理子 委員、藤沢修一 委員、
中祖 光隆 委員、澤野辰徳 委員、伊沢幸子 委員、小野瀬善行 委員、
大塩宗里 委員、
【欠席委員】小倉康延 委員、渡邊欣宥 委員、
市側出席者 池澤勤 教育長、清水光則 教育次長、
(事務局) 田澤孝一 学校教育課長、稲葉亜希恵学校教育課課長補佐兼指導主事、
森口哲二 同課主幹

公開・非公開別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開)
傍聴人 0人
議事録(概要) 作成年月日 令和2年8月14日

1. 開会(田澤課長)

2. 委嘱状交付

3. 教育長あいさつ

4. 委員紹介(自己紹介)

5. 会長、副会長選出

会長あいさつ(小野瀬会長)

ただいま会長職を拝命いたしました、宇都宮大学の小野瀬でございます。微力ながらしっかりと務めさせていただきますのでご指導の程、よろしく申し上げます。

副会長あいさつ(大塩副会長)

大塩宗里と申します。副会長として、精一杯務めさせていただきますので、よろしく申し上げます。

(田澤課長) 議事に入る前に、本協議会設置の趣旨及び小中一貫教育ハンドブックについて、事務局より説明する。

(森口主幹) [本協議会設置の趣旨について説明]

(稲葉課長補佐) [小中一貫教育ハンドブックについて説明]

(中祖委員) 小中一貫教育ハンドブックについて、目標や達成方法について記載があるが、その評価はどのようになっているのですか。

(稲葉課長補佐) 成果指標については、毎年、国で行っている「全国学力状況調査」において、生徒への質問紙調査があり、例えば「自分には良いところがありますか」や「夢がありますか」など自己肯定感に繋がっているかという面と、学習面で「故郷の勉強は好きですか」などの何項目かを抽出して、比較できるように数値目標も出しています。
成果指標は5年区切りで本年は2年目であるが、設定をしています。
資料があるので、後ほどお配りします。

(田澤課長) 年度ごとの評価としては、各学校で行っている学校評価等で項目の一つとしている学校もあります。

6 議事

(1) 本年度の各中学校区における推進について

(小野瀬会長) 本年度の各中学校区における推進内容について、各中学校区の代表委員より説明をお願いします。

[資料1： 下野市小中一貫教育グランドデザイン(全体&各中学校区)について説明]

(倉井委員) 南河内中学校区の説明

(高橋委員) 南河内第二中学校区の説明

(蓬田委員) 石橋中学校区の説明

(宮川委員) 国分寺中学校区の説明

(中祖委員) 市の学校教育目標の一番目に「学力の向上」とあるが、ここまでの説明では余り出てこなかった。現在は心や身体、地域、コミュニケーションなどを重要としているのですか。

(宮川委員) 小中一貫教育の中で、小学校のどこの部分が穴となって中学校の何ができないのかという事に対し、学力向上部会で話し合っている。今年度は各教科で集まれる機会ができれば、集まりたいと考えています。また、家庭学習についてはまだ定着が図れておらず、家庭学習に加えて自主学習、「自分で何をするのか」、「自分で何を学びたいのか」を考えられるような方法や機会を数多くとって行きたいと考えています。また、家でも「ノーゲームディ」などの呼びかけをしながら家庭学習の定着を図り、学校での学習と車の両輪のように回していきたいです。

(高橋委員) 南河内二中学校区グランドデザインにある「まなび」欄が学力の取り組みとなる。3校での授業研究を行い、より子ども達の力を伸ばすため、小中の先生たちが参加しています。また、学力調査の分析を行っている。それにより、苦手な所を引き上げるためにはどのような取組をしていくかを協議しています。

各中学校区の説明では余り詳しく取り上げなかったが、学力に対しての取組はしっかり行っています。

(藤沢委員) 自分は石橋中学校の学校運営協議会委員をしていますが、会議の中で学力の話題は常に出ています。理数系が弱いという事が分かっているので、学校

の先生だけでなく、学校運営協議会の委員で手伝える方がいないかという募集が来ています。昨年からそのように学校でも動いていますという事を報告します。

(伊沢委員) 国分寺中学校の里山活動について、落ち葉を集めているので、火を使うから難しいかもしれないが、焼き芋をやってもいいのではないか。食べながら交流するというのは良いと思います。

(藤沢委員) 火を使うのは許可されていないので、役所内で調整を取ってもらわないと難しいかと思います。

(倉井委員) 2年前まで国分寺小学校の校長をしていましたが、その時はまだ国分寺西小学校があり、その学校行事で里山活動がありました。国分寺小と統合されるので国分寺西小学校児童全員と国分寺小学校の4年生が里山活動を実施しましたが、その時に地域の方が焼き芋を差し入れしてくださった。地域にはそのような協力をして下さる方がいるので、有り難かったです。

(藤沢委員) SNSの利用について、学校では数値を把握しているのですか。

(宮川委員) 今、アンケートの取りまとめを行っています。

(藤沢委員) 結果は公表されるのですか。

(宮川委員) パーセントなら可能です。

(藤沢委員) パーセントで結構なので教えて欲しいです。青少年育成市民会議では、携帯電話の講習を行っており、以前は「持つな・持たすな」であったが、今後のあり方について参考にさせて頂きたい。

(宮川委員) 8月の校長だよりの中に掲載する予定です。公民館にも配架しています。

(小野瀬会長) 地域で子どもを育てるために、そのような情報共有する事ができて良かったと思います。

(伊沢委員) オンライン授業について、検討をお願いしたいです。タブレットが無い場合には、市から貸与して貰い、録画して見られるような方法をお願いしたいです。

また、子ども達の良さを見るに当たって、山下清氏の書籍を読み、氏が在籍していた学校が千葉県にある「八幡学園」ですが、創立者が氏の絵画の才能を見いだした方です。当時は精神薄弱な所があると、拒絶されてしまうという、今は特別支援などがありますが、そのような方のために創立されたそうです。そこで貼り絵を教えた時にその才能に気が付いたそうです。先生方にも子ども達のどこに良い所があるのか是非、見て行って欲しいです。

(小野瀬会長) 子ども達の良さを継続して見て行って欲しいという事で、例えばキャリア教育での検討でもあったかと思われませんが、重要な指摘かと思います。学習指導要領が全面実施になった事で、評価の観点も新たに出てきた中で評価のすり合わせも各校でされているのかと、最後に私も質問しようと思っておりましたが、評価の幅が広がってしまうかもしれませんが、子ども達をどう見ていくのかという事で何か議論があればご紹介いただきたいという事と、あと、オンライン授業の導入については事務局の方かもしれませんが、正に反転学習ではありませんが、既にオンラインにおいて話し合いを行うとかもされているかと思います。小中一貫からは、はみ出てしまうかもしれませんが、情報等があればよろしくお願ひします。

- (小杉委員) お願いなのですが、各校の重点項目で算数や理科で挙げられているのですが、中学生の勉強を見る機会があり、その時に思ったのが国語の能力が落ちているなというのが正直、思った所です。特に授業時間的には昔に比べて減っているのは承知しているのですが、算数や理科は下がりやすい教科なので重点的にされるのは当然かと思いますが、理解するためには国語の力が大切なので、国語の時間も強化して頂いた方が、結局は全教科に繋がるのかなと思います。例えば、総合の時間で発表する時にしてもやはり語彙力等がなければ、いくらパワーポイントを使って見栄えが良くても中身がなければ仕方がないので、特に数学などを見ても文章問題でつまづく子が結構います。それは国語の能力だと思いますので、国語の授業も重点的にお願いしたいと思います。
- (藤沢委員) 今日の報告の中で、学校運営協議会の連絡会議で石橋地区では年に一回開催されているようですが、国分寺や南河内地区では如何なのでしょう。
- (高橋委員) 南河内二中学区は集まりやすいというのもあり、また、3校の委員さんが重複している方もいらっしゃいます。小学校と中学校の委員両方で委嘱されている方が何名かいて、それぞれで開催すると決まらない事があるので、皆さん集まって一回で話し合おうという事が始まりでした。
- (大塩委員) 中学校区で事情はそれぞれ違いますよね。ですので、一概に合同で開催した方が良いとは中々、言いにくいと思います。各校で開催するのは当然必要なのですが、場合によっては合同で実施しても良いという場面が出てきたら、その時に実施しても良いというような形にでもすれば良いのではないのでしょうか。
- (高橋委員) 全員ではなくとも、各校の委員さんの何名か代表で集まって頂くのも、ありかと思いますが。
- (藤沢委員) ふれあい委員会というのがありますが、それとは趣旨が違いますが、そこに出席している人も大体同じなので繋がっていくのではないのかと思っているのですが、中々皆さまに広げられない。4中学校区の皆さまが集まれば「ああ、このような事を行っているのか。」という事がよく分かりますので、そのような機会があればいいのではないかと思いますので、検討をお願いします。
- (影山委員) 南河内中学校は小中一貫の同じ敷地内の義務教育学校になり、他の3中学校は敷地も別な学校の連携で如何に小中一貫教育をして行くかという視点かと思いますが。それは今時点でも始まっているし、ずっとゴールが無いようなものだと思うのですが、この小中一貫教育ハンドブックの中で一つはゴールとして、南河内中学校区は否応なく一つになってしまうのですよね。本当は別にしたいという方もいるかもしれないけれども、一緒にやるという事なのですが、そうはいつでも組織としては別なのですよね。建物や先生も別なのですよね。
- (倉井委員) 校舎は二棟になりますが、小学校と中学校とは分かれずに9年生制となります。
- (影山委員) 小中一貫教育ハンドブックの6ページ目の所に4-3-2の教育段階で子ども達の成長に合わせるのはいい事かと思いますが、具体的に一体になる

学校とならない学校の中で、どのように一体感を出していくのかを教えてください。

(宮川委員) 義務教育校だけでなく、一般の学校も中学校の教育システムを取り入れて行かなくてはならない方向に動いています。それは専科教育という、一人の先生が一つの教科を教えるものですが、国分寺小学校でも既に先進的な取組として専科教育が入って来ています。音楽などは音楽の専科教員がいます。中学年から高学年はこの専門の教員が教えています。この先、教育界全体が今TTという形で行っているものを専科教育の方に向けようかという話になっています。それは小中一貫教育の一つの流れでもあります。中学校の教育システムを小学校の中に取り入れて、高学年で専科教育を受けていれば中学校に行った時に学級担任を中心とした教育だけでない、専科もきちんと受け入れられた子どもとして中学校に繋がっていくという形に、これから先、私たちの学校もなっていくと思います。

そのような中で、義務教育学校はその学校の中に専科教員がいて、5・6年生や中学校を繋ぐといった事を行える可能性があります。カリキュラムの中に入れて行けば、一番先進的な小中一貫教育の学力に特化した部分を補完できるというような良さが義務教育学校の中にはあるだろうと。そして私たち、小学校、中学校と分かれて別な所にある学校もそのような姿の一部はこれから先生達の中に出てこないといけないと思います。

(倉井委員) 生活面でも精神的な部分でも5・6年生は中学生に近いといえますか、この4-3-2というのは非常に有効だと思います。小学校1年生と6年生では物凄く精神面も違うし、その6学年が一つの校舎に居るよりは4年生くらいで切って5・6年生、中1生で区切ってというのが非常に指導する側としても、声かけ一つにしても、子ども達にとっても良いかと思います。

(影山委員) それは可能なのですか。

(倉井委員) 可能です。

(影山委員) 小中学生区別なしと一緒に教育というのは可能ですか。

(倉井委員) 建物は二棟ですが、交流は非常に言い易いと思います。

(小野瀬委員長) 正に9年間の4-3-2をどう実質化していくか。そして施設一体型のメリットをこれからこのような場で検証していき、広めていくとの重要なご指摘かと思います。

(澤野委員) SNSについて、最近も誹謗中傷で自殺された方のニュースもありましたが、学校ではどの位教育されているのでしょうか。

(蓬田委員) 小学校高学年では情報モラル教育をその危険性を含めて1~2時間行っています。また、必要性があれば、3~4年生にも発達段階に応じた教育をしています。

(瀬端委員) 先ほど、小杉委員からもありましたが理数系に力を入れておられる印象はありましたが、高校でも一番困っているのが、国語力がずいぶん低下しているという事です。この3ヶ月学校が休業になって、各教科で課題を出したのですが、割りと国語に対する課題が自分一人ではやりにくいという事です。数学や理科などはある程度、出されたものに対して対応できるのですが、どうしても国語は、他の教科に比べて思うように行かなかったとの事で、学校

での指導が力を付けさせるのに時間がかかる事を実感しました。6月から学校が再開し、そのような所もなるべく授業で補う事をしておりますが、数学や理科に比べると目に見える成果が出るまでには時間がかかるもので、小中の時にしっかりやって頂けると、全ての教科に繋がっていく事は間違いないので、大切な事だと感じました。

(中祖委員)

SNS や国語の問題を聞いていると、家庭・親の子どもへの関わり方というのが半分以上だと私は思います。教科でいうと国語になるのでしょうか、人の言っていることを理解するのは、教科書に書いてある事を理解する事ができなければ数学の文章問題が解ける訳が無いです。「家でもちゃんと話をしてください。5W1Hを使って話ししてください。」と言っても学校側から親に言う事は、言葉は悪いですけど、しれていると思います。学校の先生が親に言う事は大切ですけど、別の所からもお父さん・お母さんに勉強は大切ですよと、中には勉強しなくても食べていけるという方もいますが、そのような事を言われたら先生も大変です。幼稚園でも友達や先生と話すという事はとても大切な事だと思います。それが無いと中学校3年生でも、私の子はサッカーをしていたのですが、同じ練習の仕方でもそれを理解する差は15人いたら全然違います。言っていることを理解するというのは、どれほど大変か、本人は分かりません。それが普通だと思っていますから。これから小中一貫教育を進めて行くにあたり、中学校3年生の先生が小学生1年生の先生に「1年・2年の間にこれ位の事はやっておいてね。」等の事を言って頂くなど、もっと交流を深めて頂き、読む・聞く・書くなどのベースを作って頂く事が大切だと思います。それは、申し訳ないけど小中学校の先生だけではできませんよと言って頂ければと思います。

(大塩委員)

いつもながらですが、先生方のご苦勞に感謝申し上げます。教育長から将来の一貫教育の考え方として幼から入って幼・小・中・高まで一貫すればもっと良いものができるのではないかとのお話がありましたが、更にこのような一貫教育の中でこそ、今回のコロナ禍に係る問題としていくらか緩和されるものが出てくるのではないかとのお話もありました。この小中一貫は、残念ながらまだ歩き始まったばかりで、学校も右往左往しているのではないかと思います。この小中一貫の中では色々な要素が含まれており、その要素に向かって取り組んでいく事は非常に大変です。今日の各校区の説明では限られた時間で説明いただきましたが、学力の事より取組についての説明が長くなってしまいましたが、私が現職の頃にはいつも学力の事が頭にありました。学校内でも、学力がまず話に出てきてそれからという事を思い出しました。また、藤沢委員とともに青少年育成にも携わっていますが、青少年育成の立場から申し上げますと、このグランドデザインを見させていただいた時に、学校教育目標やビジョン、目指す子ども像という形で一番上に出てきています。その中でずっと掘り下げられて具体策まで来ている訳ですが、「人や社会に関わる」「地域との繋がり」「ふるさとを愛し」「たくましく未来を拓く」などの文言が出てきています。これは県教委からの指導でふれあい学習が非常に盛んになってきて、これに繋がっていています。各学校で必ずいる域連携教員の存在が非常に大切になってくるのではないかと

思います。この地域連携教員の活躍の場を是非作って頂きたい。それによって子どもを中心として学校と協議委員、学校とボランティア、そのような繋がりが広がって行くのではないかと思います。まず、子どもをどのように育てたいかという事になった時に知・徳・体は切り離せないので大変でしょうが、よろしく願いいたします。

(2) その他

(藤沢委員)

この会の年回開催日数を教えてください。

(森口主幹)

年間2回を予定しており、次回は来年2月を想定しています。

(小野瀬会長)

以上、終了します。